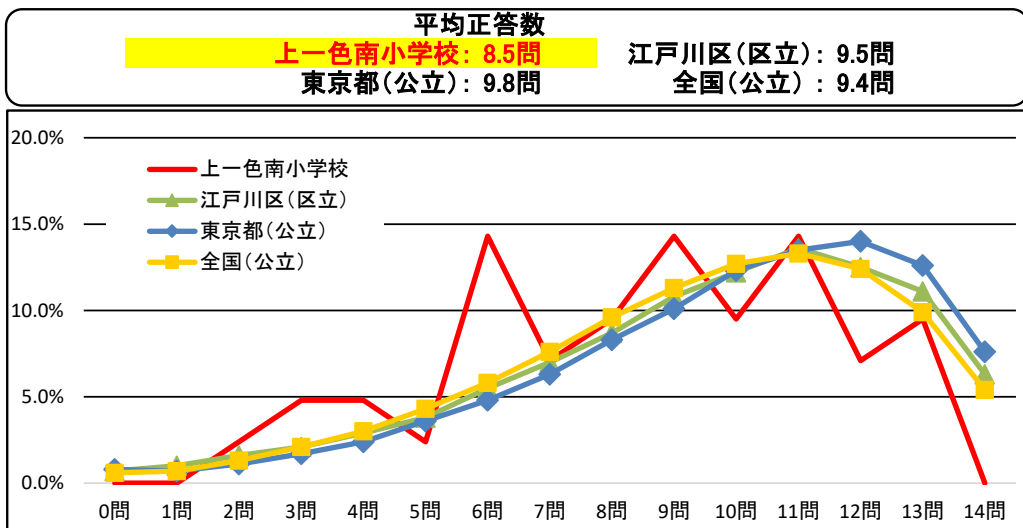


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 上一色南小学校

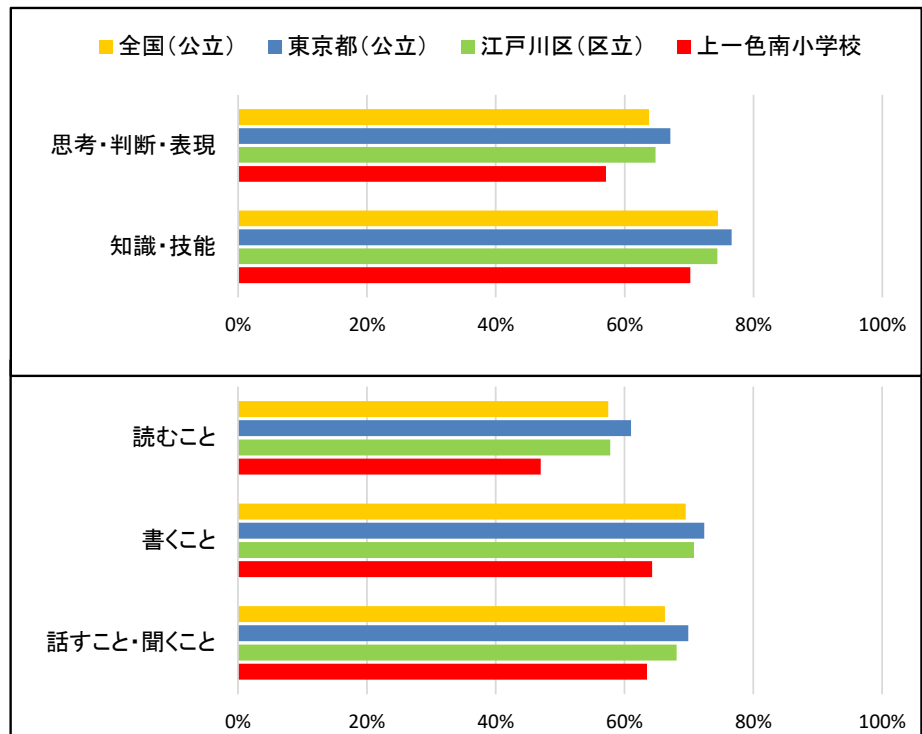
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

上一色南小学校	61%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-9.0

「領域別」の結果

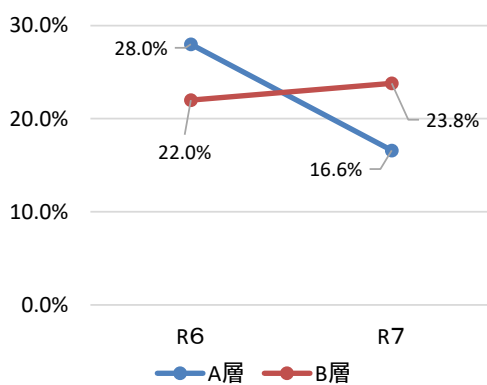


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

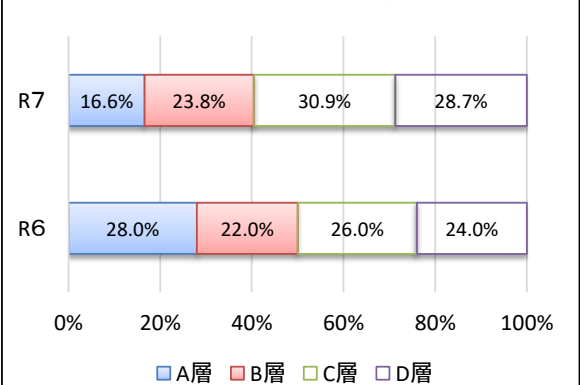
国 語	上位 ←		→ 下位	
	A 層 12～14問	B 層 10～11問	C 層 8～9問	D 層 0～7問
上一色南小学校	16.6%	23.8%	30.9%	28.7%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合を示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

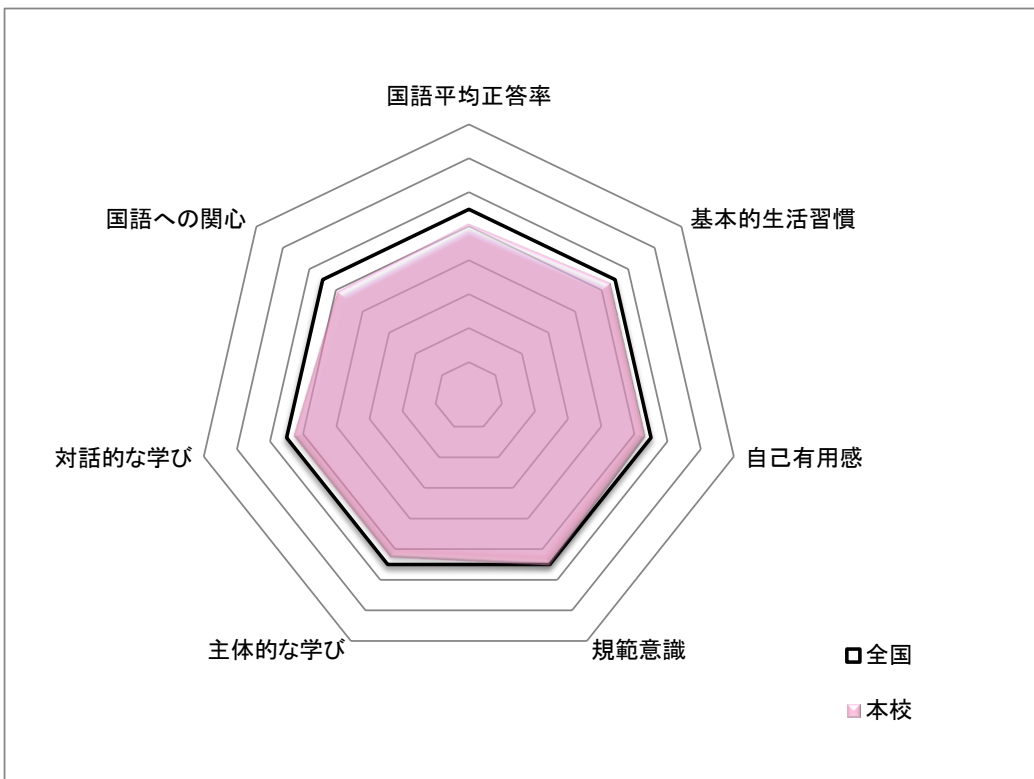
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

全国学力・学習状況調査での児童質問調査における「国語への関心意欲」、「授業の理解度」、「国語の有用性への理解」の項目への肯定的回答の割合が、どの項目も全国に比べて5%以上低い。このことは、「読むこと(読解)」の平均正答率が全国より10%以上低いことと関連していると思われる。「読む力(読解力)」の向上が上記3項目の肯定的回答率の向上につながる。「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の全国との差は5%以内であった。

《家庭・地域への働きかけ》

PTAの図書ボランティアと連携し、図書館の環境整備や読み聞かせ等の活動に取り組み、児童の「読書」への意欲向上を図っている。また、保護者会や学校ホームページ、tutoruの活用等を通して、本校の生活指導目標を示した【7つの合言葉】の取組状況を地域や家庭と共有しながら、児童の基本的な生活習慣の改善に生かしていく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

AB層の割合が、全国と比較して10%以上低い。また、昨年度(令和6年度)との比較でも9.6%低くなった。その中でも、「A層」が少なくなった実態が見られた。「B層」は1.8%上昇している。この結果は、特に、「読むこと」の正答率の低さに大きく関係していると思われる。「語彙力不足」も読解力の低さに影響していると考えられる。児童の読解力を向上させる取組として、国語の授業において、「作者の意図の読み取り」や「登場人物の心情の推測」などの活動に力を入れるとともに、読書活動を推進していく。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

本校は昨年度(令和6年度)まで3年間、江戸川区教育課題実践推進校(学力向上)として、算数を中心に学校全体で研究活動に進めてきた。その中で、教師一人一人の「指導力向上」を図ってきたが、今年度はその「成果と課題」を踏まえながら、国語を含めた「他の教科指導」においても、教師の指導力及び児童の学習意欲の向上を目指して授業実践に取り組んでいる。

・基礎学力の保障

今年度は校内で、特に「漢字の習熟」に力を入れて取り組んでおり、漢字の読み書きに関しては「区の学力調査」でも比較的よい結果を出すことができている。この点は、今後も引き続き力を入れていく。「読解力の向上」については、読書科の取組に力を入れるとともに、読み聞かせや定期的な読書活動に積極的に取り組むことを通して、語彙力を養っていく。さらに、「読む力」を高めるために、国語の授業を充実させていく。「書くこと」についても、授業だけでなく、作文や日記を宿題に出すなど、日頃から「書く」活動を日常に取り入れていく。

・学習習慣の確立

今回の児童質問調査では、授業以外の学習時間が「1日2～3時間」、「1日3時間以上」と回答した児童の割合が、東京都の4分の1、全国の半分以下であった。また、「毎日1時間以上読書をしている」児童の割合も、東京都や全国との比較で大きく下回った。意図的・計画的に宿題を提示することで、学習内容の定着にとって必要不可欠な予習・復習の習慣化に取り組む。また、「読む力」の向上に必要な読書の習慣付けも行っていく。

・AB層の育成

昨年度(令和6年度)と比較すると、「A層」が約11%減少、「B層」が1.8%増加、「C・D層」がそれぞれ約5%増加している。C層に含まれる児童には、あと少しの得点でB層になる児童が多く存在するため、この層(C層上位)の学力向上により、A・B層の拡大を目指していくのが目標の一つとなる。定期的な漢字テストの実施による漢字習熟の促進、音読や読書の取組による語彙力の向上、国語の授業を通しての読解力の向上など、基礎的な国語力の向上を図っていく。